



2024年8月27日

実海域実船性能評価（OCTARVIA）プロジェクト フェーズ2
成果報告会

OCTARVIA2 総括

OCTARVIA2プロジェクト長 （国研）海上・港湾・航空技術研究所 辻本 勝

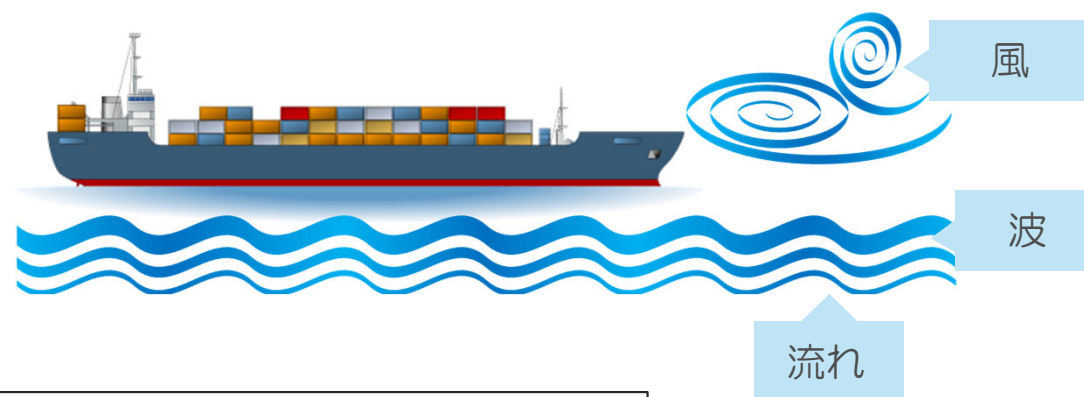
OCTARVIA（実海域実船性能評価）プロジェクト

就航船への適用が拡大される環境規制への対応やデジタル化技術の利用等、企業単独では実施できない／成果の最大化を図ることができない研究テーマに取り組むため、実海域実船性能評価プロジェクトで実海域実船性能を測る「ものさし」を開発し、これを基に、各社ビジネスで利用するために必要な研究開発をオープンイノベーション方式で実施しました。

1 運航段階での評価（実船モニタリングデータ解析）

2 設計段階での評価（シミュレーション）

3 船主への提示方法（性能評価）



プロジェクトの目標

世界中の船舶をほぼ同じ精度で客観的に評価・比較できる「ものさし」の確立。

OCTARVIA（実海域実船性能評価）プロジェクト

海事クラスター共同研究

共通領域を対象に研究開発を実施

参加機関は作業の分担を原則

期間

フェーズ1：2017年10月～2021年3月（3年半）

フェーズ2：2022年 3月～2024年3月（約2年）

OCTARVIA2

社会実装に必要となる研究開発を実施

OCTARVIA会議

成果の普及・標準化検討を実施

予算

合計 9.35億円

参加のべ27機関



OCTARVIA（実海域実船性能評価）プロジェクトの目指すもの

社会的背景

2017年

海運・造船の市況低迷および中韓造船の台頭を受けて、我が国海事クラスターの間で、国際競争における優位性確保には総合的な技術力とイノベーション力を高める戦略的技術開発が不可欠との認識が高まる。

方針

- ・「海事クラスター共同研究」を企画
- ・まずは共通テーマの「実海域実船性能評価」から開始
- ・オープンイノベーション方式で実施

SDGs

社会貢献

- ・各社ビジネスでの利用
- ・それを支援する国際標準化

オープンイノベーション

フェーズ1

2017.10-2021.3

海事クラスター：船社・造船・船用メーカー等の参加

技術課題

代替燃料の対応
低速運航の対応

フェーズ2

2022.3-2024.3

研究テーマ

主なテーマ

	内容	成果	備考
運航段階での評価	実船モニタリングデータ解析法	アプリ（SALVIA-OCT.web）	外部データ接続を実施
設計段階での評価	実海域性能推定法	アプリ（OCTARVIA-web）	外乱修正にも使用
船主への提示方法	船舶のライフサイクル評価法	標準化（新規ISO提案へ）	

OCTARVIA2の実施概要

OCTARVIA2（運営会議）

研究進捗管理
予算管理
報告書審議 など

社会実装WG

研究チーム（複数）

守秘必要な実船モニタリングデータ（17隻）を使用

GHG削減対応技術

代替燃料使用の燃料消費量評価・
GHG排出量評価

低速運航に対応した実海域推定法

透明な検証手法

実船モニタリングデータによる実
海域実船性能の検証法の開発

経年・汚損影響の実証

webアプリ開発

クラウド接続



OCTARVIA webアプリ



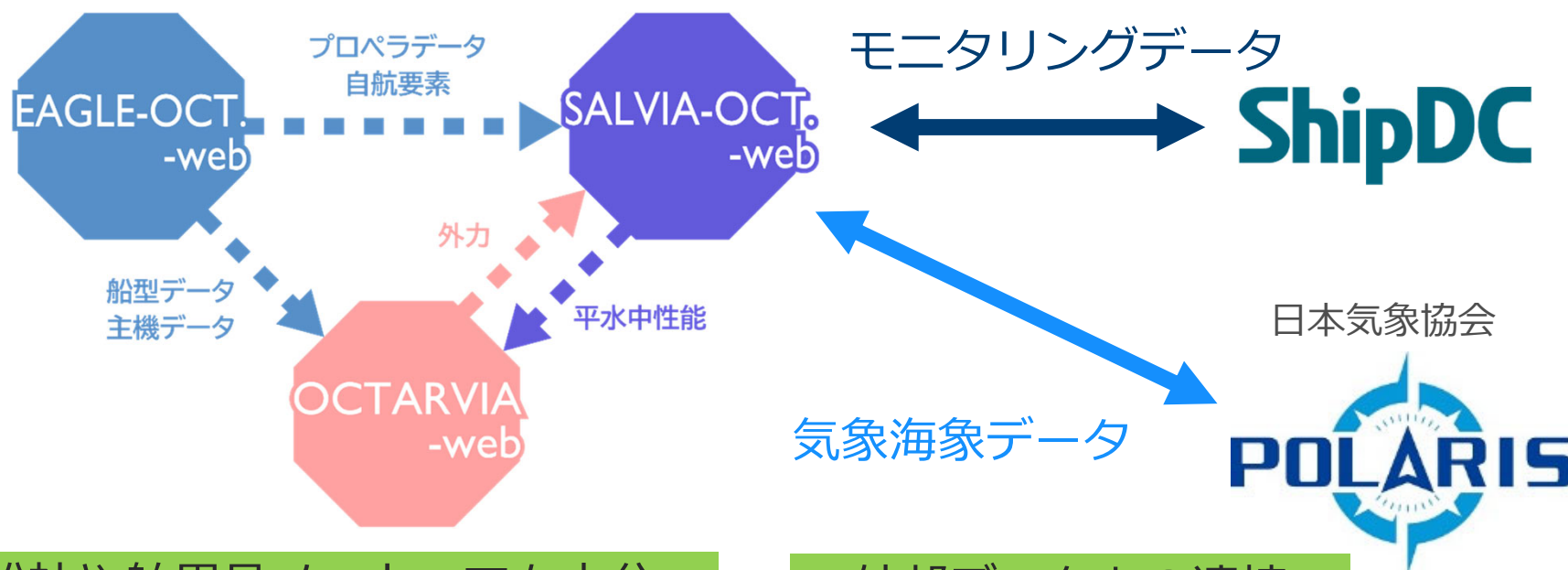
NMRIクラウドでの公開

<https://cloud.nmri.go.jp/>

ご使用にはユーザー登録が必要です。

機能限定版（無償）

フル機能版（有償）



船社や舶用品メーカーでも十分な精度で計算可能
(詳細船型データを簡易推定)

外部データとの接続

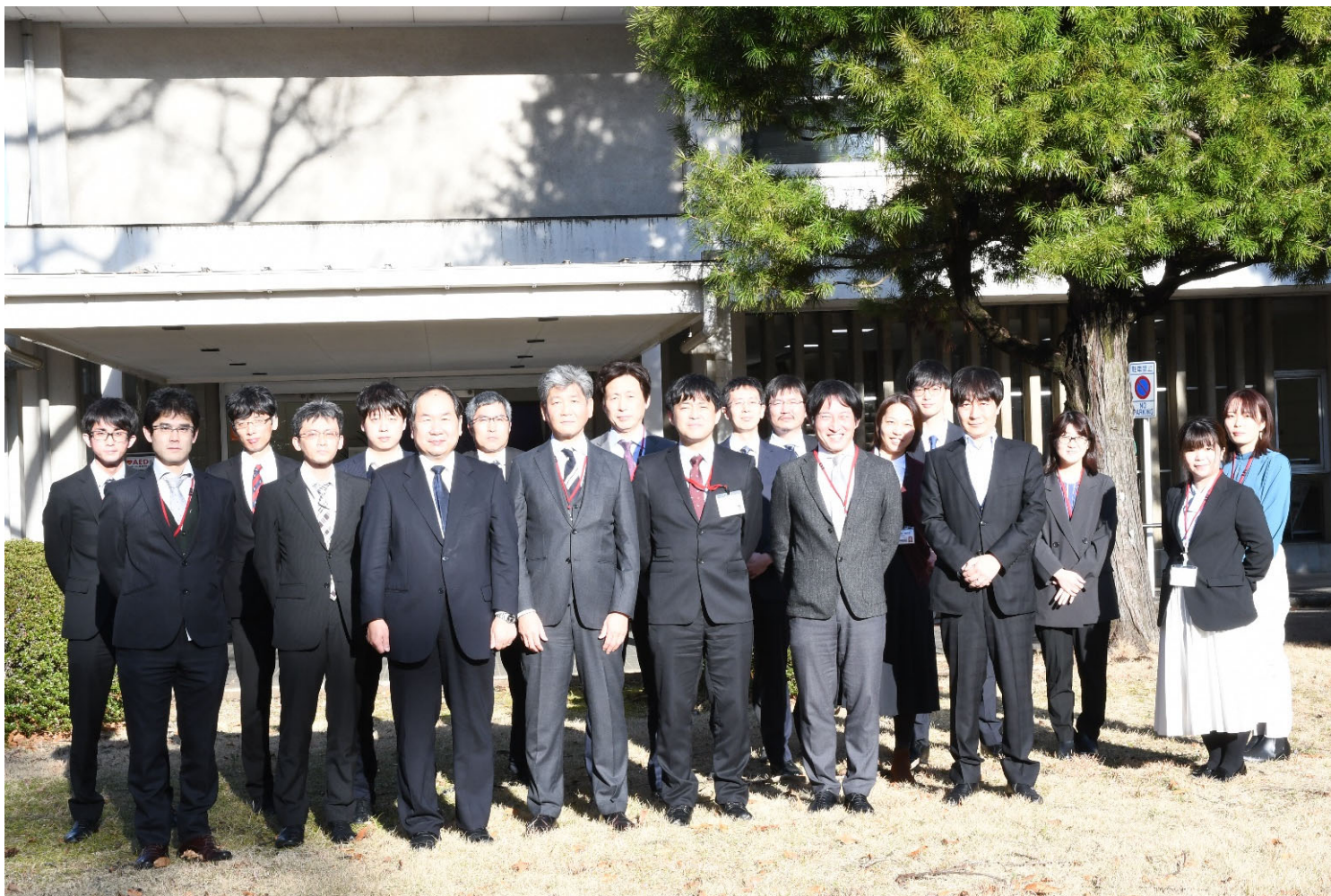
OCTARVIA webアプリ契約手続きは以下から

<https://unicus.jp/licensing/octarvia/index.html>

<https://unicus.jp/licensing/salvia/index.html>

<https://unicus.jp/licensing/eagle/index.html>

ご清聴ありがとうございました。



2024年3月